

共に手を携えて新たな鋼構造分野を



高梨 晃一

社団法人 日本鋼構造協会会長
東京大学名誉教授

社団法人ステンレス構造建築協会創立 15 周年おめでとうございます。

今回、貴協会創立 15 周年特集号を発刊されるにあたり、社団法人日本鋼構造協会会長としてご挨拶させて頂きたいと思っております。

わが国の土木建築分野における鋼構造技術は、炭素鋼を中心とした「鋼材」を核としてさまざまな技術課題を克服し、世界に類を見ない建造物の建設を支えてきました。とは言え、鋼材には「腐食」という現象が避けられないことから、日本鋼構造協会では「鋼材選定、防食、維持管理」等の幅広い視野から、腐食による性能劣化を克服するための技術開発、技術の普及に取り組んできております。

これに対して、ステンレス鋼の「腐食」に対する抵抗力は「鋼材（炭素鋼）」を遥かに超えるものと認識しています。貴協会におかれましては、この「ステンレス鋼」を建築構造部材に適用するという新しい市場の創出に挑戦され、それを実現したという華々しい事業実績を積み重ねられており、特に近年、すべての産業において環境性能が重要視される中で、ステンレス鋼の材料特性は今後の社会構築に極めて重要なものと考えております。

貴協会は 2010（平成 22）年度から日本鋼構造協会と合併する予定ですが、日本鋼構造協会としては、建築、土木の鋼構造分野における種々の技術開発・技術普及において、従来の「鋼材（炭素鋼）」に加えて「腐食」に強い「ステンレス鋼」を対象に加えることとなり、今後の鋼構造技術の発展に向けて、素材の選択肢が広がり、それらの材料特性を最大限に発揮させることで社会に貢献し、地球環境問題にも対応する新しい技術の研究開発が可能になるものと大きな期待を抱いております。

貴協会と日本鋼構造協会の合併により、今後の鋼構造技術として炭素鋼とステンレス鋼の両輪で社会の要請に的確に応えてまいりたいと考えています。さらに、これらの協会活動の成果はわが国の利益のみならず東南アジア、東アジア諸国の近隣諸国を始めとして、全世界的な利益となるように積極的に発信していきたいと考えております。